

GCOE ワーキングペーパー

京都大学における男女共同参画に資する調査研究 7

子育て中の親を対象とするアウトリーチ活動のニーズ調査

浅井 歩

(京都大学宇宙総合学研究ユニット 特定助教)

2012 年 2 月



京都大学グローバル COE

「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」

Global COE for Reconstruction of the Intimate and Public Spheres in 21st Century Asia

〒606-8501 京都市左京区吉田本町 京都大学大学院文学研究科

Email: intimacy@socio.kyoto-u.ac.jp URL: <http://www.gcoe-intimacy.jp/>

概要

我々は「子育て中の親」を対象とする自然科学に関する講演会を複数回開催し、そのことで研究者側および地域における子育て中の親のニーズ調査を行った。科学研究分野では広く広報普及活動（アウトリーチ）が行われている。しかし、その対象は「子ども」や「科学にもともと興味がある人」であることが多く、若者や働き盛り世代へのアピールが不足しているという課題が指摘されている。一方、本研究課題が対象とする「子育て中の親」は、子連れで参加できる社会的活動が少ないという状況にある。まして高度な知的活動に触れる機会は著しく乏しい。子育て中の親を対象とする講演会は、これまでアウトリーチの対象として弱かった世代（親）への直接のアプローチである。また、そのような子育て中のために社会から孤立しがちな親に対して、大学の知的活動に触れるという他にない「居場所、時間の過ごし方」を提供することができる。講演者には、育休中や子育て中の研究者を積極的に活用することを検討した。このような講演会を、形態を少しずつ変えながら複数回開催した。またその際、研究者および地域のニーズ調査を行い、これにより将来的に京都大学の定常的な事業に発展させてゆくための問題点と最適な方法を探った。

1. 本研究のねらいと目的

我々は「子育て中の親」を対象とする自然科学に関する講演会を複数回開催することで、研究者側および地域における子育て中の親のニーズ調査を行うことを目的としている。

科学研究分野では広く広報普及活動（アウトリーチ活動）が行われている。特に天文学分野は視覚的に理解しやすいなどのために、広い世代にわたって関心が高くアウトリーチ活動が盛んに行われている。しかし、その対象は「子ども（小学生以上）」であったり「科学にもともと興味がある人（中・壮年層が多い）」であったりすることが多く、若者や働き盛り世代へのアピールが不足しているという課題が指摘されている。特に本研究課題が対象とする「子育て中の親」に対しての講演会は、開催数自体が非常に少ない。他方で子育て中の親は、子連れで参加できる社会的活動がそもそも少ない状況にあり、まして高度な知的活動に触れる機会は著しく乏しい。

子育て中の親を対象とする講演会は、これまでアウトリーチの対象として弱かった世代（親）への直接のアプローチである。また、そのような子育て中のために社会から孤立しがちな親に対して、大学の知的活動に触れるという他にない「居場所、時間の過ごし方」を提供することができる。これまでに開催された子育て中の親向け講演会においても、参加者は極めて高い関心や満足度を示しており、このような講演会の需要は潜在的には高いと考えられる。同時に親に向けたアウトリーチ活動は、将来的にその親を通して子どもがさらに科学に親しむきっかけになるという二重の効果が期待できるという点で、能率の良いアウトリーチ活動となる可能性がある。

さらに、講演者には子育て中、特に育休中の研究者を積極的に活用することを検討した。参加者と同年代で「子育て中」という共通の環境にあるため、参加者もより興味を持ちやすいのではないかと考えた。特に育休中の研究者の活用は、その研究者にとっても、社会や研究とのつながりを維持する一つの方法を提供できる。逆に育休中でない研究者にとっても、自らの研究のアウトリーチという動機からこのような活動に参加することで、結果として男女共同参画への意識を高めることが期待される。

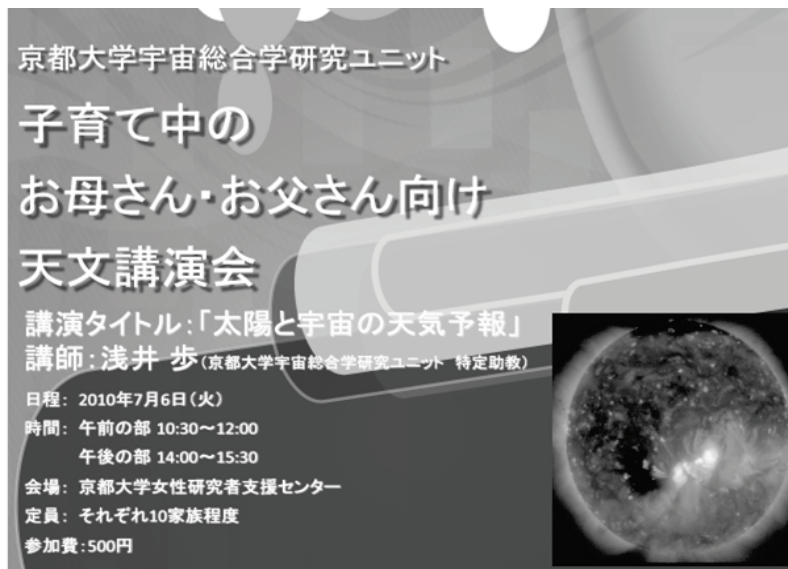
以上のように、「子育て中の親向け講演会」は多面的な効果があると予想される。我々は、このような講演会を、形態を少しずつ変えながら複数回開催した。またその際、研究者および地域のニーズ調査を行い、研究者と地域の両方のニーズに即したアウトリーチ活動の在り方を探った。これらにより、将来的に京都大学の定常的な事業に発展させてゆくための問題点と最適な方法についても探った。

2. 活動の報告

講演会は、お子さん（乳幼児）を対象にしたものではなく、大人の知的好奇心に応え得る内容とした。また、参加者が気軽に参加でき、講演会に集中してもらえるよう、子ども同伴可能・託児室完備など、体制を整えた。以下に、具体的な活動報告を順次述べる。

2. 1. 子育て中のお母さん・お父さん向け天文講演会

図 1: 2010年7月6日開催の講演会案内チラシの一部。



講演会の詳細

【日時】

2010年7月6日(火)

【場所】

京都大学・女性研究者支援センター

【講演タイトル】

「太陽と宇宙の天気予報」

【講師】浅井 歩 (京都大学宇宙総合学研究ユニット)

図 2: 講演会の様子を伝える新聞記事。2010年7月7日の京都新聞。

(京都新聞提供)



第1回目の「子育て中のお母さん・お父さん向け天文講演会」を、2010年7月6日に京都大学女性研究者支援センターにおいて開催した。お子さんの年齢別に2回開催し、親子同室での講演会、完全託児として親のみに向けての講演会を開催した(図1)。本講演会は、日本天文学会・天文教育普及研究会が主導した全国七夕講演会2010(<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/tanabata/>)の一環としても行われた。全国七夕講演会2010についての記者発表でも、この講演会についての告知がなされ、新聞紙上(京都新聞2010年6月15日25面、毎日新聞2010年6月19日26面)でも紹介された。

講演会には10名の参加申し込みがあったが、お子さんの体調不良によるキャンセルがあり当日は7名(男性2名、女性5名)の参加があった。講演会の他、講師と参加者で懇談する時間を設け、細かな疑問にも応じられるようにした。これは、参加者が講演内容をより深く理解し、身近に感じてもらうことに役立ったと考える。当日の講演会の様子は新聞紙上でも紹介された(京都新聞2010年7月7日23面; 図2)。

2. 2. 子育て中のお母さん・お父さん向け講演会

子育て中のお母さん・お父さん向け講演会

講演タイトル: 「生き物のつながり」
講師: 水町 衣里
 (京都大学物質-細胞統合システム拠点 研究員)

日程: 2010年8月25日(水)
 時間: 午前の部 10:30~12:00
 午後の部 14:00~15:30
 会場: 京都大学女性研究者支援センター
 定員: それぞれ10家族程度
 参加費: 500円(お子様1人につき)

対象:
 午前の部:
 0-1歳のお子様*をお連れの保護者の方。
 親子が同じ部屋で参加します。おもちゃや絵本などのある控え室があり、保育士も待機しています。
 午後の部:
 就学前のお子様*をお連れの保護者の方。
 別室で保育士による託児を行います。

*ただしこれらの対象年齢は目安のものではありませんので、お気軽にご相談下さい。

なお講演中の出入りは自由です。授乳、オムツかえのスペースもあります。

参加を希望される方は、参加者氏名、お子様の氏名・年齢、参加を希望する時間帯(午前の部/午後の部)を明記して、8月22日までにkzr@kwasan.kyoto-u.ac.jpに電子メールでご応募ください。応募者多数の場合は先着順になります。詳細は以下のサイトをご参照ください。
<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/usss/kzr/>

京都大学女性研究者支援センターの周辺地図

主催: 京都大学宇宙総合学ユニット
 共催: 京都大学GCOEプログラム・「機密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」

図3: 2010年8月25日開催の講演会案内チラシ。

講演会の詳細

【日時】2010年8月25日(水)

【場所】京都大学・女性研究者支援センター

【講演タイトル】

「生き物のつながり」

【講師】水町衣里(京都大学物質-細胞統合システム拠点)

第2回目の「子育て中のお母さん・お父さん向け講演会」は、2010年8月25日に同じく京都大学女性研究者支援センターにおいて開催された(図3)。この講演会では、天文分野を離れ生物多様性について、京都大学物質-細胞統合システム拠点から水町衣里さんを講師に招いて開催した。親子同室での講演会とし、託児サービス利用可能として開催した。この講演会については、新聞紙上(京都新聞2010年8月19日23面)でも紹介された。

当日は、5名(男性0名、女性5名)の参加者があった。講演は、写真付きのパネルを利用してゲーム形式で行われるなど、お子さんも交えて終始楽しく和やかな雰囲気で行われた。また、途中でぐずったお子さんは別室の託児室で保育士の付き添いの下、遊べる環境を整えたことで、出席者が安心して講演に参加することができた。本講演は、2010年10月に名古屋で生物多様性についての国際会議(COP10)が開催される前であったため、参加者の生物多様性に関する問題への理解、ひいては自然科学への興味を深めることとなった。

2. 3. コズミックカレッジ×子育て中のお母さん・お父さん向け講演会

京都大学宇宙ユニット・子育て中のお父さん・お母さん向け講演会
宇宙航空研究開発機構(JAXA)・コズミックカレッジ
合同企画

あかつき、金星へ

講師:大月 祥子(JAXA プロジェクト研究員)

日程: 2010年11月10日(水)
時間: 午前10:30~12:30
会場: 芝蘭会館別館
京都市左京区吉田牛ノ宮町11-1
Tel.075-751-2713

定員: 10家族程度
対象: 就学前のお子様をお連れの方
参加費: 500円(お子様1人につき。託児料込)

【プログラム】
10:00~ 受付開始
10:30~11:45 講演及び質疑
11:45~12:30 親子で宇宙に関係した簡単な工作(指導:JAXA宇宙教育センター・馬淵正展)
その後懇談

講演中は別室で保育士による託児を行います。1歳以下のお子様は講演会場にお連れになっても結構です。講演中にお子様が目立たず走り回ったりしても構わない、というスタイルで行います。
会場は14時まで開いており、講師もしばらくの間おりますので、終了後に会場でお弁当等を食べながら懇談を続けて頂いても結構です。

※参加申し込み方法
参加ご希望の方は、保護者氏名、お子様氏名・年齢、メールアドレス、託児の際の注意点(あれば)を明記してkzr@kwasan.kyoto-u.ac.jpまで電子メールでお申し込み下さい。定員になり次第締め切らせて頂きます。定員に達していなければ、当日ご参加頂くことも可能です。

お問い合わせ先
kzr@kwasan.kyoto-u.ac.jp までメールでお問い合わせ下さい。電話でのお問い合わせには対応していません。詳細はHPにて。
<http://www.kwasan.kyoto-u.ac.jp/usss/kzr/>

図4: 2010年11月10日開催の講演会案内チラシ。

講演会の詳細

【日時】2010年11月10日(水)

【場所】京都大学・医学部芝蘭会館別館

【講演タイトル】

「あかつき、金星へ」

【講師】大月祥子(宇宙航空研究開発機構宇宙科学研究所)

天文・宇宙関連のアウトリーチ活動は、国内外でさまざまな機関で実施されている。特に宇宙航空研究開発機構（JAXA）の宇宙教育センターは、国内における宇宙教育のアウトリーチ活動で主導的な立場にある。ただし、本研究ユニットが対象とするような「子育て中の親」に対するアウトリーチ活動は、これまでほとんど行っていない。そこで、第3回目となる「子育て中のお母さん・お父さん向け講演会」は、JAXA・宇宙教育センターと連携を図り、その活動の一環である「コズミックッカレッジ」の一部として、京都大学・医学部芝蘭会館にて開催することとした（図4）。

本講演会では、JAXA・宇宙科学研究所から大月祥子さんを講師にお招きし、金星探査機「あかつき」の現状について講演頂いた。「あかつき」は2010年5月21日に打ち上げられ、同12月に金星軌道投入の予定を控えていた（当時）時期であり、小惑星探査機「はやぶさ」の活躍もあったことから、社会的関心も非常に高いものであった。当日は講演会に加え、工作教室（傘袋でロケットを作るなど）も開催され、出席者参加で賑やかに行われた（図5）。工作は、お子さんが大きくなってから親子一緒に作れるように、簡単なものが選ばれたが、おもりや羽の付け方でロケットの飛び方を調べることができるように、などの科学的理解を深められるように配慮もされており、親も一緒に楽しむことができた。

この講演会でも、親子同室として開催したが、別室で保育士を待機させており、途中でぐずったお子さんが自由に利用できるように環境を整えた。

図5: 2010年11月10日に開催された講演会での様子。工作をしているところ。後ろに保育士が待機している。



2. 4. 子育て中のお母さん・お父さん向け講演会

2010年度最終回となる、第4回「子育て中のお母さん・お父さん向け講演会」は2011年2月6日に京都大学百周年時計台記念館にて開催された(図6)。本講演会はこれまでの講演会とは異なり、大規模な講演会に託児サービスを整えることとした。

小惑星探査機「はやぶさ」が2010年6月に日本に帰還し、その帰還したカプセルの一部が京都大学総合博物館に企画展示されたことに伴い、京都「はやぶさ」シンポジウムが開催され、「はやぶさ」の設計・開発や「はやぶさ」の科学的重要性について講演があった。この講演会の参加想定人数は500名と大規模なものであった。そこで別室に保育士を待機させ、乳幼児連れの方にも参加しやすいように環境を整えた。託児環境を提供することは、シンポジウムが「子育て中の親」の参加を積極的に促す(参加を排除しない)ことの強いアピールとなったと考えている。

入場無料 託児室有

小惑星探査機「はやぶさ」の設計・開発にかかわった研究者による
京都「はやぶさ」シンポジウム

開催日時: 平成23年2月6日(日) 14:00~17:00 (開場13:30)

会場: 京都大学百周年時計台記念ホール

「地球は青かった」の名言を残したユーリ・ガガーリン少佐が、人類初の宇宙旅行を成し遂げたのは、1961年のことでした。それから50年、小惑星「イトカワ」から昨年見事帰還した、世界に誇る「はやぶさ」のカプセルが京都にやってきました。この絶好の機会に、京都大学と京都府教育委員会は、壮大な宇宙に向けて新たな一歩を踏み出した研究者の皆さんとともに、「はやぶさ」をテーマに「宇宙」や「科学技術」について考えるシンポジウムを開催します。子どもたちの未来に大きな夢をつなげるこのシンポジウムに御参加いただき、共に宇宙に想いを馳せてみませんか。

開会挨拶 大西 有三 (京都大学副学長)

講演 山川 宏 (京都大学生存圏研究所教授・内閣官房宇宙開発戦略本部事務局長)
演題「はやぶさ探査機がたどって来た道とこれから先の道」

藤原 顕 (元宇宙開発研究所教授)
演題「はやぶさがひらく小天体の科学」

図6: 2011年2月6日開催のシンポジウム案内チラシの一部。

シンポジウムの詳細

【日時】2011年2月10日(水)

【場所】京都大学・百周年時計台記念館

【タイトル】京都「はやぶさ」シンポジウム

【講師】山川 宏(京都大学生存圏研究所、内閣官房宇宙開発戦略本部)など

本シンポジウムは大変盛況であり、会場入り口に長蛇の列ができ、また会場も開場後すぐに満席となってしまった。そのため、乳幼児を連れて参加者が逆に人混みを嫌い、シンポジウム参加をためらうことが生じてしまった。「シンポジウムには参加できなかったけど、託児室を見学したい」という参加者が複数家族あった。託児室を利用されたのは2名(男性1名、女性1名)であった。

3. 参加者のアンケート結果

本研究では、ニーズ調査を行う一方で、子育て中の親向けアウトリーチ活動のさまざまな講演会形態の実践を行った。講演会の回を重ねるごとに新たな連携が生まれるなどしており、そのため一律なアンケート結果の統計的集計はほとんど意味がないものとなってしまった。そのため、ここでは、個々のアンケート結果から伺える参加者の意見やニーズについてまとめる。

今回の全4回の講演会で、参加者は延べ16名(10家族)であった。参加者の年齢は、ほとんどが30代・40代であり、また近隣からの参加者が多数であった。これは、参加者が「子育て中の親」であることを考えると当然である。一方、奈良県・兵庫県から来られた方もあり、関心の高さも伺えた。開催場所の要望で「出前授業(奈良)してほしい」という意見があった。今年度はいずれも京都大学内の施設での開催に限られたが、今後は遠方も含めさまざまな場所での開催を企画するなど、可能な範囲で講演会場を増やしていきたい。

参加者の性別は、「宇宙・天文」がテーマの講演会では30%~50%が男性(お父さん)を占めるが、「生物」が話題の講演会では全員が女性であるなど、テーマによる男女差が顕著に見られた。

今回は、第1~3回講演会は平日に、第4回講演会は日曜日に開催した。平日に開催すると、「仕事があるため、休日に開催してほしい」との要望が聞かれた。実際に「仕事を休んで講演会に出席した」という参加者もおられた。また、特に「男性(お父さん)が興味を持つテーマ」での講演会の場合は、土日開催の要望が高い。ただ本研究ユニットでは、子育て中のために社会から孤立している親への救済を第一に講演会を企画している。開催日程については、今後はさらに検討が必要である。

講演内容や講演会の開催形態についての意見には以下のようなものがあった。

- 子どものことを気にせずゆっくり話が聞けて良かった
- (講演会が)アットホームな感じで良かった。託児も安心できた
- なかなか最先端の話聞く機会がないので貴重な時間だった
- 日常生活から全く離れて知的な刺激を受けられたことに感謝している
- 研究の一旦を知ることができ嬉しく思った。貴重な機会だった

- 講演がとても親切で分かりやすかった
- いろんな疑問を思いつき、考えたりすることが楽しかった
- 育児中はなかなか講演会には参加できないので、このような取り組みはぜひ続けて欲しい

これらは概ね我々の当初の目標に合致する意見であるから、講演会の企画や運営に関しては高い評価を頂けたものと認識している。

また、今後聞いてみたい講演内容について要望を聞いたところ、「宇宙のこと（宇宙の果て）」「人間の五感」「人間の進化」「生物の多様性」「iPS細胞」「最新医療」など、自然科学分野・医学分野への関心に加え、「語学」「文化」「歴史」「芸術」「音楽」「なんでも！」というものもあった。

4. 主たる成果と考察

本研究ユニットでは、アウトリーチが不足しているとされる「子育て中の親」をターゲットとした講演会を、今年度4回開催した（平成22年7月6日、8月25日、11月10日、平成23年2月6日）。毎回形態を多少変更し複数回開催することで、研究者と地域の両方のニーズに即したアウトリーチ活動の在り方を探った。講演会の参加者は延べ16名（10家族）であった。講演会の話題は天文学を中心に自然科学研究の最前線に関するものであった。講演会の内容は7月7日の京都新聞、8月19日の京都新聞紙面上などでも紹介された。

託児環境を整えることで、参加者は講演に専念でき、その知的好奇心に応えることができた。参加者のアンケート結果からも高い関心や満足度がうかがえ、このような講演会の需要が高いことが確認できた。参加者は近隣からが多数であったが、奈良県・兵庫県から来られた方もあり、関心の高さがうかがえた。

参加者の多くは、小規模講演会・大規模講演会問わず、今後も同様の講演会開催を望んでいること、が分かった。講演会の開催形態を少人数参加型で対象を子育て中の親に限ったことで、「参加しやすい雰囲気」を作ることができたのではないかと考える。小さな乳幼児も、小規模な講演会で親子同室であったため、安心して時間を過ごしやすかったようである。一方で大規模な講演会・シンポジウムに託児サービスを提供することは、主催者側が、子育て中の親の参加を排除しない・歓迎していることを、対外的に強くアピールするものである。今後、託児環境をより整備し、あらゆる講演会・シンポジウムでも託児サービスを積極的に取り入れられることを望む。

講演内容への要望は、自然科学を中心に人文社会学系分野も含め、研究の最前線の話題に及んでいることもわかった。京都大学のような総合大学では、これら一般参加者の広い興味に応え得る、さまざまな分野の研究者による講演が可能である。しかしながら本研究ユニットが主導する限りでは、天文学分野を中心とする自然科学分野の講演内容に大きく

偏ってしまうと考えられる。ぜひ、全学をあげて、このような「子育て中の親向けアウトリーチ活動」を推進して頂きたいと強く要望する。

また、講演者に育休中の研究者を積極的に活用することを当初検討していたが、この点については今年度中に実施に至らなかった。これは、候補となる該当研究者（育休中の研究者）が多くなかったことや、遠方にいるために謝金・出張旅費の支払いで（育休中であるために）講演依頼する際に困難が生じたことなどによる。育休中の研究者の活用は、その研究者にとって社会や研究とのつながりを維持する一つの方法を提供でき、育休中でない研究者にとっては、このような活動に参加することで男女共同参画への意識を高めることが期待される。将来の発展として、育休中の研究者の積極的活用をぜひ実現したいと考える。

また、広報活動に課題が残った。今後同様の活動を展開する上では、関係機関やマスコミとの連携をより一層深めて行く必要があると実感した。ただ、今年度は講演会の回数を重ねる中で、JAXA・宇宙教育センターや京都大学総合博物館との連携を実現できた。また、京都市「こどもみらい館」など近隣の関係機関との提携も検討するなど、今後の発展の形は見えてきたと考える。

謝辞

我々は、講師を担当して下さった水町衣里さん、大月祥子さんに感謝いたします。講演会の開催に際しては、JAXA 宇宙教育センターの馬淵正展さん、日本宇宙少年団の二唐義夫さん、京都大学総合博物館のみなさんにお世話になりました。また、本研究ユニットの立ち上げや講演会の開催をサポートして下さった、京都大学女性研究者支援センターの犬塚典子先生、田坂登志美さん、他スタッフのみなさん、また、京都大学 GCOE 「親密圏と公共圏の再編成をめざすアジア拠点」事務局のみなさん、その他関係者のみなさんに感謝いたします。京都大学地域研究統合情報センターの押川文子先生、京都大学文学研究科の伊藤公雄先生には、研究期間を通じて温かいご支援やコメントを頂きました。

2010年度京都大学における男女共同参画に資する調査研究「子育て中の親を対象とするアウトリーチ活動のニーズ調査」(研究代表：浅井歩)による成果である。

【メンバー】()内は2010年度プロジェクト時点

浅井 歩 (京都大学宇宙総合学研究ユニット 特定助教)

磯部 洋明 (京都大学宇宙総合学研究ユニット 特定講師)

永田 伸一 (京都大学大学院理学研究科附属天文台 助教)

羽田 裕子 (京都大学大学院理学研究科附属天文台 博士後期課程)